

立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)

在外研究

2015年度研究成果報告書

研究代表者	所属部局・職		氏名	
	観光学部・准教授		佐藤 大祐 印	
研究課題	近代ハワイにおけるスポーツの伝播・受容とリゾートの生成プロセスに関する研究			
全研修期間	2014年 9月 1日 ~ 2015年 9月 4日 (369日間)			
経費	年度	SFR申請額	所属学部からの補助額	SFR助成額
	2014年度	2,079,340円	850,000円	1,229,340円
	2015年度	1,300,542円	850,000円	450,542円
主な滞在国及び研究機関名	国名	研究機関名		
	アメリカ合衆国	ハワイ大学社会科学部地理学科		

研究成果の概要 (図・グラフは使用しないこと)

オアフ島のワイキキ地区海岸部の多くは、19世紀末から20世紀初頭にかけて、ホノルル在住者の別荘地として利用されていた。近代期のワイキキにおいて海岸リゾートがいかにかに生成されてきたのか、本研究はそのプロセスを土地所有者の変遷と、スポーツや保養、社交などの余暇活動の導入・受容・定着のプロセスの分析を通して明らかにすることを目的とした。分析資料として、ハワイ州土地測量課とハワイ大学図書館蔵の1880~1920年代の大縮尺地図群(地籍図に類するもの)を用いて、ワイキキの土地所有者の変遷を復元した。また、判明したワイキキ地区の土地所有者がそこで誰と何を行っていたのか、どのような影響を受けていたのか、例えばスポーツの実践やクラブへの加入などの相互作用について関連文献や当時の新聞などによって把握してきた。

ワイキキ海岸部の土地所有者の構成については、人種としてはハワイ先住民、白人、混血が、職業階層としては王族・貴族、政治家・軍人、プランテーション等経営者などが確認できた。これら土地所有者は、19世紀末から20世紀初頭に向かって、人種の点でも職業階層の点でも前者から後者へと遷移していくが、大まかに3つのグループに区分できた。1つ目はハワイ先住民の王族・貴族であり、彼らは白人とその文化への羨望や自らの社会的地位確立のためにワイキキに別荘を構え、西洋スポーツ等のクラブを設立して社交を繰り広げていたと考えられる。2つ目は白人のプランテーション等経営者であり、ワイキキでの社交や王族貴族との婚姻関係を通してハワイ社会に深く入り込み、経済的・文化的優位性を背景に土地や利権を含めた資産を増大させていくことが企図されていたと考えられる。3つ目は混血で中間的な人々であり、ハワイ発祥の文化を止揚させながら、米国による支配と共存共栄していくという意図があったと推測される。

研究成果の概要 (つづき)

以上のように、ワイキキの別荘地を舞台にして、欧米から伝播したヨットや水泳、ハワイ在地のカヌーやサーフィンなどのスポーツが、それぞれのグループの文化的象徴や社交の道具として用いられていた。こうして、ワイキキ海岸リゾートの発展前夜において、主たる観光客となる米国の白人にとって受け入れやすい生活基盤が整い、なおかつ上記スポーツに代表される西洋・ハワイの文化混淆によってエキゾチックな状況が生まれていたと言える。その後、リゾートとしての価値・イメージがメディアによって流布され、ワイキキは著名なリゾート地として発展していくことになる。

ワイキキの土地所有者とそこでのスポーツ等の伝播に関連する上記人物間の相互作用や、社会・経済・政治も含めた地域変化の連関について、関連文献と人物録、*Hawaiian gazette* や *Hawaiian star* 等の新聞を基に検討した。この分析はいまだ道半ばではあるが、これまでに判明したハワイ王族や白人プランテーション経営者などの土地所有者は、ワイキキにおいて水泳やヨット、サーフィンなどを実践した主体でもあった。また、彼らは各スポーツに関するクラブを組織し、そこでの社交を媒介として政治的な活動も行っていた。このように、社会的・経済的に重要なポジションにいた彼らの関係や行動が、ハワイの政治とも関連しながら、スポーツの伝播と受容ひいてはリゾート地形成の原動力となった。

キーワード (研究内容をよく表しているものを5項目で記入)

〔文化伝播〕〔文化の受容〕〔土地所有〕〔支配・被支配の相互作用〕〔海岸リゾート〕

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文タイトル、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

- ①佐藤大祐・澁谷和樹 2015. 富士山麓における別荘地の開発と利用形態. 地学雑誌, 124 (6): 965-977.
- ②佐藤大祐・丸山宗志 2016. 文化ツーリズムとスポーツ観光. 菊地俊夫・松村公明編『よくわかる観光学 3 文化ツーリズム学』朝倉書店, p.111-122.
- ③Sato, D. Oct 08 2014. Summering in Japanese hill stations. Guest speech at 'Asian Studies 600-J Fall 2014' (for MA degree, Instructor: McDonald, M.). The Asian Studies Program, University of Hawaii.
- ④佐藤大祐 2016. 在外研究通信 Hawaii ワイキキ, 歴史の一コマ. 交流文化, 16: 44-45.

※この(様式2)に記入の、成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。